
夜中のトイレ

聖魔光闇

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

夜中のトイレ

【コード】

N19110

【作者名】

聖魔光闇

【あらすじ】

夜中に起きたらトイレに行きたくなつた…そこからの悪戦苦闘

(前書き)

子供だった頃の記憶を元に書いてみました。

『そうそう』と思える内容になっているつもりです。

夜中何となく目が醒めてトイレに行きたくなった。

『ブルブルッ』と身震いして『はぁ』と溜息をつく。

『嫌だなぁ』と頭の中では思ってる。

なんでって、夜中のトイレって怖くない？

僕の家は二階建ての一軒家。トイレは一階にしか無いのに、僕の部屋は二階。

『はぁ』また、溜息が出た。

と思っけていても、もよおしたものは引っ込まないので、勇気を振り絞り、ゆっくりと布団から起き上がると、そっと扉を開け、恐る恐るトイレまで行く。

トイレに辿り着くと『ホッ』とする。トイレの中では怖く無い。

けれど、またトイレから出ると恐怖心が目を覚ます。

急いで手を洗い、タオルで手を拭く時間も勿体ないかのように、パジャマに手をゴシゴシと擦り合わせ、階段を駆け上がる。

二階に辿り着いたら、サツと後ろを振り返り、『何も』いない事を確認してサツサと部屋へと入る。

布団に潜り込むと頭まで布団を被り『何か』が近付いて来ないか、
布団の中から覗きながら確認する。

何もいないのを確認し、『ホッ』と胸を撫で下ろすと、眠りに入る。

こんな時は眠たいんだろうな。さっきまで、あんなに張り詰めて
いた緊張感がスツと抜け、すぐに眠りに落ちていく。

そして、朝。

布団の上には大きな地図が…。昨夜の恐怖は？ 勇気は？

夢…だったのかなあ…。

「お母さん、ごめんなさい。」

(後書き)

毎度短くてすみません。

子供の頃、こんな体験した事ありませんか？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1911o/>

夜中のトイレ

2010年10月8日14時10分発行